

令和7年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和7年11月12日（水） 午後3時30分～4時30分

2. 場 所 桐生市教育センター 5階 501会議室

3. 出席者

【構成員】	桐生市長	荒木 恵司
	桐生市教育委員会	
	教育長	小林 一弘
	教育長職務代理者	板橋 英之
	委員	山野 玲子
	委員	松本 昭彦
	委員	小池 亮子
【事務局】	(市長部局)	
	共創企画部長	三田 善之
	企画課長	大澤 善康
	スポーツ・文化振興課長	今泉 勝浩
	青少年課長	星野 正史
	日本遺産活用室長	矢島 修
	新里支所市民生活課長	桑子 佳吾
	黒保根支所市民生活課長	青木 秀樹
	企画課企画戦略担当係長	曾我 延博
	企画課大学連携・教育都市推進担当係長	金子 英雄
	(教育委員会事務局)	
	教育部長	森 広一
	教育部参事	渡邊 真宏
	総務課長	峯岸 孝徳
	学校教育課長	須藤 英隆
	教育環境課長	糸井 広江
	生涯学習課長	小野里篤史
	文化財保護課長	向田 澄枝
	図書館長	下山 理枝
	学校教育課教育研究所長補佐	森 正樹
	総務課庶務係長	山本江美子
	総務課庶務係	栗原 有美

【傍聴者】 1人

【報道機関】 1社

4. 議 題

桐生市教育支援センターの現状と展望について

5. 議事の大要

(開始：午後 3 時 3 0 分)

○開会 〈司会：教育総務課長〉

○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

改めまして、こんにちは。

本日は令和 7 年度第 1 回の総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

また、委員の皆様方には平素から教育行政はもとより市政各般にわたりお力をいただいておりますことに対しまして感謝申し上げます。

さて、総合教育会議につきましては平成 27 年の 4 月に国の法改正により、全ての自治体で首長と教育委員が出席して行われる総合的な会議ということで設置され、教育大綱の策定や重点的に講ずべき政策に対する推進など、様々な教育に関するご協議をいただいているところであります。

本日は教育支援センターの現状と展望について、ご意見いただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。せっかくの機会ですので、子供たちを取り巻く状況について若干お時間をいただきましてご説明をさせていただければと思います。

まず、昨年の 6 月に開設いたしました「tsukurun (ツクルン) KIRYU (キリュウ)」ですが、今年の 9 月までの約 1 年 3 ヶ月の間の登録人数がおよそ 540 人。延べ利用者が 3700 人。また、実習事業は 114 回も行っております。本家の「tsukurun (ツクルン)」よりも桐生の「tsukurun (ツクルン)」の方が積極的に活用されており、子供たちも楽しみにしている非常に有意義な施設になっております。

続いて、11 月の 8 日、9 日には第 5 回目を迎えたミニきりゅうが開催されました。今回は応募人数が過去最多となり、1600 人の子供たちからの応募がありました。収容人数等の制約により、1 日 550 名から 600 名程度の子供たちに 2 日間集まっていただきました。子供たちの明るい声や笑顔を見ることができ、本当に素晴らしい取り組みであり、今では桐生を代表するようなイベントに成長しております。

また、日本遺産活用室が中心となり、市内の小中高生を対象に桐生市の観光ガイドの養成を進めさせていただいております。今年は第 2 回目で、高校 1 年生 2 名が参加し、全 5 回の養成講座日本遺産編を受けて、実際のガイドに向かうという取り組みを行っております。

「女性・若者から選ばれる桐生市に関する提言書」を出している中で、今年は二つの教育に関わる事業について取組をさせていただいております。一つは保育園留学です。これは北関東では初めての取組になりますが、首都圏の子育て世代の方々を対象に 2 週間程度、子供は桐生の幼稚園や認定こども園に通っていただき、家族の方々も桐生に住んでいただく組み

を行っております。初年度なので年間 10 組程度を目標に掲げておりましたが、9 月の段階で 23 組の応募があり、実際に参加をしている方々もいらっしゃいます。引き続き、創意工夫の中で独自の取り組みを行ってまいります。

R 高等学校につきましては、スクーリングが始まりました。通学型が 6 月と 8 月に実施され、各約 100 名の参加がありました。9 月には初めて宿泊型のスクーリングが開催され、三泊四日のスケジュールで、鳳仙寺での座禅や上毛かるた大会、「紫」での織物体験・染体験等を行っていただきました。次回は 12 月に開催される予定ですので、しっかりと対応してまいります。

最後に、球都桐生プロジェクトの中で、子供たちや育成者にスポーツマンシップの精神を育成する取り組みを行っております。これまでも日本スポーツマンシップ協会の会長には何度も桐生に来ていただきお話をいただいているところでありますが、引き続き、スポーツマンシップの精神を子供たちにしっかりと学んでいただきたいと思います。そして、そういった取り組みの本来の目的というのは、子供たちが 5 年後、10 年後、15 年後に、この桐生に誇りと愛着を持ち、「自らのまちは自らで守り作る」という郷土愛と自治意識を持った人たちで溢れるまちになるということを大きな目標にしております。

これからも教育委員会としっかりタッグを組んで、取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

少し長くなりまして恐縮ですが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

桐生市教育支援センターの現状と展望について

・意見、質疑応答は以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	次第に従いまして、「3 協議・調整事項」の「桐生市教育支援センターの現状と展望について」事務局から説明をお願いします。
事務局 (教育部長)	本日ご協議いただく「桐生市教育支援センターの現状と展望」につきまして、初めに教育部参事より、概要について説明させていただき、続けて、詳細については学校教育課長より説明させていただきます。 その後、皆さまから、ご意見や今後の方向性についてご協議いただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(教育部参事)	本日は、「桐生市教育支援センターの現状と展望について」という議題でご協議いただく訳ですが、皆様ご存知の通り、教育支援センターは、今年 1 月よりこの地で開所となりました。この教育支援センターは、この後、詳しい説明がありますが、様々な理由で学校に登校できない児童生徒を対象に学校復帰や社会的自立を目指し、適切な相談・指導・支援を行う施設です。現在も、子どもたちは様々な活動を通して、のびのび生活しており

発 言 者	発 言 内 容
(学校教育課長)	<p>ます。立地条件もよい上、施設も整い、これまで以上に、子どもたちの活動に多様性を持たせ、様々な活動を経験させることにより、主体的に考え、動く児童生徒の育成が可能となりました。</p> <p>今後は、教育支援センターにおいて、「桐生ならではのプログラム」を通して、学校や社会に自信をもって出て行ける子どもたちを育成して参りたいと考えております。そのためには、多くの皆様のご協力が必要となります。本日お集まりいただきました皆様から、様々な立場でアイデアを出していただき、今後の教育支援センターの充実につなげていきたいと考えております。</p> <p>また、その実現に向けて、各関係課長と連携して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。</p> <p>それでは教育支援センターあぶろーちの詳細につきまして説明をさせていただきます。</p> <p>教育支援センター「あぶろーち」は、令和7年1月6日に新たな施設として、小曾根町に開所いたしました。それまでは、堤町にごさいました桐生市立教育研究所内に「適応指導教室」として、相談事業の一環として併設されていました。</p> <p>新施設への移転に伴い、教職員の研修等をメインとして業務を行う「教育研究所」は教育センター内に、なんらかの事情で学校に通えない児童生徒の支援施設としての「適応指導教室」は、「教育支援センター」に改名しております。</p> <p>本施設では、様々な理由により、学校に通いたくても通えない児童生徒一人ひとりの実態に応じて、支援を行っております。</p> <p>運営の目的につきましては、標記の通りでございます。何らかの要因で「不登校」になっている児童生徒を対象に、心理的安定と自立を第一に考え、学校復帰、社会復帰を目的とした支援・援助を行うことを目的としております。</p> <p>職員の構成は標記の通りでございます。教育支援センターアブローチの指導員3名を除く他の職員は、桐生市立教育研究所職員と兼務になっております。</p> <p>入所対象者は、小中義務教育学校に在籍する不登校または、不登校傾向の児童生徒で、本人及び保護者が、通所を希望し、適切であると認められた者になります。</p> <p>10月末時点の通所者数は、14名で、内訳は小学生が3名、中学生が11名でございます。</p> <p>10月の受け入れ状況は、1日平均6～7名で、2学期だけを見ると、7</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>名から8名と多くなっております。</p> <p>開所日時及び開所期間は、ご覧の通りで、開所期間は基本的に所属する学校と同じになっております。</p> <p>日時程は御覧の通りで、なかなかこの計画通りにはいかないことのほうが多いのですが、通所する児童生徒には、支援センターでの時間の区切りを意識してもらう基本として、このような日時程を設けております。</p> <p>学習では児童生徒の自主性を尊重し、内容は児童生徒が主体となって決定します。また、1日の中で、体を動かしたり、仲間とふれ合う時間を設けたりする活動を、意図的に組み入れています。</p> <p>教育支援センターでは、特色ある活動として、子供たちの自己表出の場面として、①ふれあい活動②運動日③野外体験学習④調理実習⑤お別れ会等を実施し、自主性、対人関係、社会性などを高めることをねらいとして取り組んでおります。</p> <p>こちらは、主な行事の月別の内容です。</p> <p>4月は吾妻公園散策、運動日は梅田の野外活動センターに出かけて、体育館等で体を動かしたり、広場で交流したり、体を動かすことを目的として活動しました。</p> <p>5月は年度初めのあぷろーち説明会を、教職員と保護者を対象に実施しました。また、動物園見学や特別授業を行いました。特別授業は、研究所の福島S Cが自分の気持ちとの向き合い方や友達との距離感など、通所生の実態とニーズに合わせたテーマで年6回に渡って指導する予定となっております。</p> <p>6月の調理実習は、教育支援センターでできた野菜をふんだんに使ってカレーを作りました。</p> <p>7月の運動日は、梅田の野外活動センターに出かけて、体育館で思い切り体を動かしたり、川遊びをしたりして交流を図りました。調理実習は、教育支援センターでできた野菜を使ってオリジナルのピザを作りました。</p> <p>また、ふれあい活動「七夕」では、願い事を通して他の通所生と交流を図りました。報告会では、通所している児童生徒の学校関係者及び保護者に対して1学期の活動報告を行いました。</p> <p>9月の運動日は7月同様、野外活動センターにおいて、川遊びや体育館にてバドミントンなどの運動をしました。あぷろーち説明会は、教育支援センターに興味のある保護者や教育支援センターを訪問したこのない教職員を対象に行いました。</p> <p>10月の野外体験学習は、野外活動センターに出かけ、デイキャンプのようにみんなで協力して調理実習を行いました。また、ふれあい活動では、大川美術館に出かけて、自分の気に入った絵を探し、スケッチをしてきま</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>した。この後は、児童生徒の力作を支援センターに飾る予定です。幼稚園訪問では、園児たちとの触れ合いを通して自己有用感を高め、思いやる心を養います。</p> <p>11月の吾妻山登山では、最後までやりきることの大切さや達成感を味わわせ、調理実習では、栽培した大根を調理し、自然の恵みに感謝する体験となるよう準備を進めてまいります。運動日では、野外活動センターの体育館にて、ミニ運動会を実施し、競い合い、高めあうことの楽しさを味わわせます。</p> <p>12月の報告会では、教育支援センターに通所している児童生徒の学校関係者や保護者を対象に2学期の活動報告を行ないます。</p> <p>1月には餅つきを行い、年中行事を通して、行事の意味や協力して行うことの大切さを体験します。和菓子作りでは、梅田の「香雲堂さん」を講師にお招きし、和菓子作りの繊細さやモノづくりの楽しさを体験する予定です。</p> <p>2月の運動日は、何度もお世話になった野外活動センターの清掃活動や薪割活動などの奉仕活動を行い、感謝の気持ちを伝えます。また、あぷろーち報告会では、通所している児童生徒の学校関係者や保護者を対象に3学期の活動報告を行い、その後は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、簡単なプレゼントを渡したり、みんなで歌を歌ったりして、お別れ会を行います。</p> <p>3月は、卒業・進級をお祝いする意味で、チラシ寿司をつくり、最後の調理実習を行います。</p> <p>次に、学校との連携につきましては、定期的なものとしましては、「連絡用紙」をもとに、出席状況をお伝えしております。また、教育支援センターだより「めだか通信」を毎月発行し、活動内容についてお伝えしております。</p> <p>随時的なものとしましては、年2回の説明会及び年3回の報告会を行い、教育支援センターの理解や情報交換の場として積極的に取り組んでおります。また、指導員等が在籍校に伺い情報交換をしております。</p> <p>さらに、日頃から電話や校務支援システム C4th 等を有効に活用し、情報交換を行っております。</p> <p>家庭との連携につきましては、教育支援センターだより「めだか通信」を毎月発行し、活動の様子を積極的に伝えております。また、教育相談員との定期面談を毎月1回設け、家庭での変化等情報収集にも努めております。</p> <p>送迎時のチャンス相談では、保護者への急な連絡や情報交換を積極的に行っております。また、年2回のあぷろーち説明会と、年3回のあぷろー</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ち報告会にはスクールカウンセラーも同席し、懇談会を通して、保護者の皆様の悩み相談を行っております。さらに、市民の皆様やみどり市の関係者も対象とした不登校に関する講演会を開催し、不登校に悩む保護者や教職員に寄り添った活動を行っております。</p> <p>保護者の皆様には、日々の活動の様子を積極的に伝えることで、本人の頑張りを認めてもらい、揺れる気持ちや気疲れする心情等を支えてほしい旨を伝え、関わり方や養育上の悩み等を共に考える機会としております。関係機関との連携につきましては、必要に応じて、子育て相談課や児童相談所、病院などと連絡を取り、児童生徒への支援に有効な指導助言を受けるように努めております。</p> <p>次に、教育支援センターへの移転に伴う効果ですが、近隣施設の利用が増えたことが挙げられます。今までは、児童生徒の状況に応じて、堤町内の散歩をする程度でしたが、移転後は、大川美術館や桐生が岡動物園、遊園地、重伝建や西宮神社、天満宮など、様々な魅力ある施設等があるため、年間の行事以外にも、これらを利用する機会が増えました。</p> <p>また、児童生徒の通所の様子を見ると、今までは、家族による送迎がほとんどでしたが、徒歩や自転車、おりひめバスの利用など、通所手段にも変化がみられるようになりました。</p> <p>支援センター移転後には、地域の皆様や商工会議所の皆様、教育関係者や新施設に興味のある保護者の皆様など、たくさんの方が見学にみえております。アプローチに通う児童生徒たちにとって、家族や職員以外の外部の方々とお会いしたり、お話をしたりする機会はとても貴重な経験となり、子供たちは、質問に対して一生懸命に自分の思いや考えを伝えようとしております。また、普段の活動で製作したパーラービーズの作品をプレゼントしたり、その作品を褒めていただいたりした際は、とても嬉しそうで、次は何を作ろうかと通所生同士で相談する場面も見られました。</p> <p>また、教育支援センターと教育センターが同じ敷地内にあることで、教育委員会の事務局員にも、子供たちの活動を知っていただく機会が増えました。活動に対して「ありがとう」「頑張っているね」という言葉を直接いただけることは、通所する子供たちにとっての励みになり、次の活動への意欲付けに繋がっております。また、子供たちの活動を知っていただくことで、支援センターへの理解も深めていただき、関係各課との連携も、とりやすくなったと感じております。</p> <p>以前から、通所生在籍校の先生方には「なるべく多く、通所生に会いに来て欲しい」とお願いをしてきました。移転後は、教育センターでの会議等に来られた先生方が支援センターに寄りやすくなり、子供たちの活動を見てくれたり、声をかけてくれたりする機会が増えており、通所する児童</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>生徒も喜んでおります。また、指導員や相談員も、担任の先生方と直接会って、情報交換ができるため、通所生への支援の方向性を共有しやすくなっております。</p> <p>また、施設全体が綺麗で明るくなったことで、児童生徒は、以前にも増して、気持ちよくのびのびと活動することができております。これまでは、専用の調理スペースがなかったため、様々な場所に分かれて活動していましたが、プレイルームにオープンキッチンを設置していただいたことで、広々としたスペースで、快適かつ安全に調理実習等の活動ができるようになりました。指導員は、児童生徒全体の様子を確認しながら指導することができるようになり、また、児童生徒は、共同作業をする友達の様子を見て行動したり、互いにアドバイスしたりするなど、学び合う機会が以前よりも増えてきております。</p> <p>最後に、教育支援センターの今後の展望についてご説明いたします。</p> <p>まず1つ目には、サイエンスドクター事業の活用を挙げさせていただきます。</p> <p>現在の通所生の多くは、「手芸」や「パーラービーズ」、「卓球」、「カードゲーム」などに興味を持っており、自分がやったことがなくても、周りの友達の影響を受けながら興味関心を膨らませて熱心に取り組む姿が見られております。こうした姿を見る中で、通所生たちの積極性を伸ばしたり、更なる成長を促すには、意図的にきっかけを作ってあげることが大切だと感じております。</p> <p>そこで、桐生市の特色ある教育活動の一つであるサイエンスドクター事業を、アプローチの活動にも取り入れ、群馬大学理工学府大学院生を講師としたプログラミング体験や科学体験などの学習を通して、試行錯誤したり新たな発見をしたりする豊かな体験をさせてあげたいと考えております。</p> <p>2つ目でございますが、教育支援センターのすぐ近くには、桐生が岡動物園がございます。桐生が岡動物との連携による特色ある教育活動も考えられます。</p> <p>動物との触れ合いは、命の尊さや大切さについて考えさせたり、思いやりの心を育てたりすることができる、貴重な体験になるものと考えます。教育支援センター内で動物を飼うことは、衛生面や飼育面、健康管理面など様々な課題がございますので、桐生ヶ岡動物園にいる多くの動物をその対象としてふれあう活動が可能となるよう、連携ができないか検討してまいりたいと考えております。</p> <p>次に3つ目でございますが、現在、支援センターの栽培スペースにて多くの野菜を育て、その野菜を調理することを通して、食育、共同学習など</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>多くの事を学ぶ機会を設けております。栽培活動には、土作り、水やり、草むしり、収穫など、それぞれの段階で大変なことがたくさんありますが、このような困難を一つ一つクリアして、収穫の際には、自然の恵みを感じる事ができ、大変意義深いものがございます。</p> <p>また、収穫した野菜などを使った調理実習を行うことで、みんなで協力することの大切さを学び、実際に食することで、自分自身の健康について考え、さらには、自他の命について考える機会になると考えます。</p> <p>現在行っている栽培活動や調理実習をさらに充実させて、健康や食に対する意識を高めていきたいと考えております。</p> <p>最後に4つ目でございますが、重伝建の散策や織物体験を挙げさせていただきます。</p> <p>桐生市環境物産協会や織都桐生案内人の会と連携し、重伝建の散策や織物体験を通して、桐生の歴史や良さを再確認する機会を設けるようにしていきたいと考えます。また、「MAYU (マユ)」等の利用も積極的に行っていきたいと考えます。</p> <p>以上、教育支援センターの現状と展望についてお話しさせていただきましたが、通所する児童生徒の居場所として、更なる充実を図り、また、児童生徒一人一人に寄り添いながら、1日も早く一人でも多く学校復帰、社会復帰ができるよう、今後も魅力的な活動を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>ご静聴ありがとうございました。</p>
荒木市長	<p>ただ今、事務局の説明がありましたが、教育委員の皆様から、ご意見等をお願いいたします。</p> <p>板橋委員から順番をお願いいたします。</p>
板橋委員	<p>先ほど、事務局からの説明にもありましたが、群馬大学は連携推進部門が設置されているので、サイエンスドクターと連携して教育プログラムを実施してはどうかということと、教育支援センターの近くにある美術館や動物園などの施設を利用した特色のある取組をしてはどうかと思います。</p> <p>また、学校教育課長からの説明にありました栽培活動、調理実習についてですが、群馬大学理工学部の中に食品工学プログラムの学生が約200名、食健康科学研究科の大学院生が約60名おりますので、学生と連携した取り組みができるのではないかと思います。</p> <p>普通の授業にはついて来られない、普通の授業では満足できないという児童生徒が不登校になり、教育支援センターに来ているのかなと思いますので、興味関心があるところを伸ばせるような、普通の授業とは異なる取り組みができれば良いと思います。その際は、群馬大学の学生と連携することで、大変特色のある取り組みができるのではないかと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>また、支援センターに来られない児童生徒たちには、ぜひオンラインで授業をしていただければと思います。例えば、関心があることをよく聞いて、それを伸ばせるようなプログラムを組んでいただければ良いと思います。</p> <p>群馬大学が近くにありますので連携できれば良いと思います。</p>
学校教育課長	<p>サイエンスドクター事業との連携につきましては、教育支援センターの活動の更なる充実を目指して、模索していきたいと考えております。</p> <p>現段階では、サイエンスドクター事業で使用しているドローンやmTiny（エムタイニー）などを借用して、サイエンスドクター事業担当を講師とした体験活動を通して、科学に興味を持たせるところから始め、さらには、教育支援センターに通う児童生徒が在籍している学校と連絡調整をしてドクターを派遣してもらい、サイエンスフェスタで行ったパネルディスカッションを再度行うなどの活動を、来年度に向けて計画しているところです。</p> <p>こうした取組の様子を見ながら、板橋委員からご提案いただきました子どもたちの興味を深めるような魅力ある取組についても今後検討してまいりたいと考えております。</p>
教育環境課長	<p>続きまして、不登校児童生徒を対象にしたオンライン教育について答弁させていただきます。</p> <p>各学校でも不登校の子供たちに、子供たちの状況に応じてタブレットを使ったオンラインでのやり取りをしているところですが、現在通所している児童生徒の中で、学校とつながりが持てる状況にある児童生徒につきましては、オンラインにて、担任や各教科の教諭と話をする場面や、授業の様子を参観する場などを設けております。また、市内の小中学校で使用しているドリルパークというオンラインの教材等を活用し、教育支援センターでの学習に生かしております。</p> <p>個々の児童生徒に合わせた支援をしていけるように今後も取り組んでまいります。</p>
荒木市長	<p>続きまして、山野委員よりお願いいたします。</p>
山野委員	<p>詳細なご説明をありがとうございました。</p> <p>特に、今後の展望に関して、この地の利を生かした新しい取組に大変期待しております。</p> <p>2025年不登校児童生徒は過去最多の34万人超えという報道がされましたが、大きな社会課題になっていると思います。桐生市でも例外でない中、市として一生懸命やっておりますが、今後、市として不登校児童生徒に対して、どんな支援ができるのか伺いたいと思います。</p> <p>また、誰一人取り残されない学びの保障というところが大事かと思いま</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>すので、誰一人取り残されない学びの保障に向けた教育支援センターであるかということについて伺いたいと思います。「あぷろーち」で学びたいという子どもが、全員通所できている状況であるか、さらに、1人1人の実態に即した支援をするにあたり人的環境が十分なのか、その辺のところが心配ですので、お聞かせください。</p>
教育環境課長	<p>本市においても全国と同様に不登校児童生徒は増加傾向が見られております。不登校対策は喫緊の課題と捉えております。</p> <p>登校できない状況にある児童生徒については、その児童生徒の抱える状況について各校で分析をし、校内でその状況を共有し、学校で担任や教育相談員を中心として組織的な対応を行ったうえで、学びの場の1つとして、教育支援センターを紹介し、学校から教育支援センターへの橋渡しをいたしております。そして、センターへの通所につながった際には、本課の不登校児童生徒の情報等を教育支援センターと共有し、指導に役立つよう支援を行います。</p> <p>また、市内各校の教育相談員及び教育支援センター在籍の教育相談員やスールカウンセラーが、一同に介して年間6回実施する教育相談員等会議では、SVを講師に招き、教育相談員にかかる講話やワークショップ、情報交換を行い、児童生徒の具体的な対応の仕方について学び、相談技術の向上に役立てております。今後も教育支援センターとの連携を強化しながら児童生徒一人一人の状況に応じ、学びを保障できるように支えて参ります。</p> <p>併せて、今後も不登校の子供達にとって何が必要かを考え、教育委員会だけでなく子供にとって貴重な体験ができるよう関係機関、関係各課と連携しながら活動の選定を進めて参りたいと考えております。</p>
学校教育課長	<p>2つ目の質問「誰一人取り残されない学びの保障に向けた教育支援センターであるか」について、「あぷろーち」で学びたいという児童生徒が、保護者送迎がなくても通所できる状況であるかということにつきましては、中学生以上の生徒で、「あぷろーち」に通所したいという思いがあれば、保護者の送迎がなくても通所できると考えております。近年の様子や新施設へ通所している児童生徒の様子を見ますと、保護者等による送迎に加え、自転車や徒歩、バスを使って一人で通所する児童生徒が増え、新施設になったことで交通の利便性が高まり、通所の方法も多様化されてきたと感じております。おりひめバスを利用しての通所につきましては、桐生駅から少し歩く事にはなりますが、だいぶ利用しやすくなっていると考えます。</p> <p>次に、児童生徒一人ひとりの実態に応じた支援を行うにあたり、人的環境は十分であるかということにつきましては、11月末現在の通所承認者</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>数は 14 名で、毎日 6～7 名程度の児童生徒が通所しておりました。11 月に入って間もないのですが、この 2 か月の間に通所している児童生徒増えております。1 日平均 10 名弱通っているという状況です。このように引き続き通所生が増える傾向を考えますと、余裕があるとは言いがたい状況ではございます。</p> <p>通所生のほとんどは個別の支援が必要であり、児童生徒一人に対して一人の指導員が支援にあたらなければならない状況がでございます。現在は、毎日、教育研究所 3 名の教育相談員が 3 名の支援センター指導員と連携しながら 6 名体制で対応させていただいているところでございます。</p>
山野委員	<p>人手が足りないというところは改善できると良いと思います。運営の目的である心理的安定と自立を第 1 に、1 人 1 人へのさらなる充実した支援ができるように、いろいろな面で考えていただけたらと思います。ありがとうございました。</p>
荒木市長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。続きまして、松本委員よりお願いいたします。</p>
松本委員	<p>丁寧なご説明をありがとうございました。先程の説明にもありましたように、教育支援センターは不登校の子供たちの受け入れ先という点では、非常に学校現場からも頼りにされていると思います。</p> <p>それを踏まえた上でさらにお話をさせていただきますが、今後のことを考えますと、教育支援センターは、学校、保護者、地域、あるいは市全体を繋ぐハブ的な役割を担っていくことが必要だと思います。</p> <p>例えば、単純に受け入れるだけでなく、学校の授業や行事、市内で実施されている発表会などの状況について、通所している児童生徒と共有するなど、通所している児童生徒が社会から孤立しないように、そのような意味でのハブ的役割ということも必要だと思います。</p> <p>また、各学校で行われている不登校を出さない取組、あるいは不登校が起こりそうな子供に対してどういう取組をしているかについて、情報共有をするということも必要だと思います。例えば、県内や全国の不登校に対する取組についての情報もたくさんあります。良い実践例を各学校に紹介するというような役割も必要かと思います。ある意味ではいろいろな取組の総合案内所、不登校に関する総合案内所的な取組も必要かもしれません。</p> <p>先ほど市長から市内で行われている子供たちに対する様々な取組についてのお話がありましたが、社会性ということを考えれば、市内の様々な取組や行事について、子供たちが身近なものとして感じられるように、やはりハブ的に子供たちに繋いであげることが必要だと思います。不登校の子供たちが通う施設としての役割もとても大切ですが、今後、不登</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>校の問題というのは、どう対応するかという問題と、もう一つは、学校で不登校を出さない取組にはどういうものがあって、どういう学校であれば不登校にならない理想的な学校なのかということ積極的に発信していくということがこれからの教育支援センターには必要ではないかと思います。教育支援センターと名乗る以上は適応指導から一歩踏み出して、ハブ的にいろんなことを発信していかなければならないと思います。そのためには、人材やICT、他の施設整備ということも必要になりますし、市長部局の方との連携も緊密に行う必要があると思います。非常に期待されているだけに、さらに適応指導教室の一歩先をぜひ目指していただきたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。移転からまもなく1年が経過いたしますが、先ほど説明をさせていただきました通り、教育支援センター「あぷろーち」におきましては、これまで以上に不登校児童生徒支援が充実してきております。そのような中で保護者や地域の皆様からのより大きな期待を日々感じているところでございます。</p> <p>本県では不登校児童生徒の増加傾向が続く中、本市におきましても、その対応や改善に向けての取組には多様性が求められております。ご指摘をいただいたとおり、学校や地域、全県をつなぐ拠点としてのあり方も検討していく必要性を感じております。ご質疑の中で、具体的なご意見をいただくことができましたので、これらを参考とさせていただきながら、支援センターとしての役割や可能性について、これからしっかり検討を重ねて参りたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
荒木市長	<p>続きまして、小池委員よりお願いいたします。</p>
小池委員	<p>新しい綺麗な施設で子供たちが伸び伸びと色々なことにチャレンジしているということを知ることができました。ありがとうございました。</p> <p>場所が変わったということで周辺施設の活用について、いくつか考えてみましたが、図書館や「tsukurun（ツクルン） KIRYU（キリュウ）」、駅が近くなったので利用できたら良いと思いました。図書館や「tsukurun（ツクルン） KIRYU（キリュウ）」は無償で利用できるのので長期休暇のときなど、子供たちが自分で行ける場所が一つでも増えると世界が広がると思います。また、駅から電車に乗るという機会は、群馬に住んでいると滅多にないと思いますが、新しい世界を知るきっかけにもなると思います。</p> <p>子供たちが作ったり描いたりしたのがあると思いますが、市役所や支援センター、教育センターの建物のロビーに展示するのも良いと思いました。忙しく大変だと思いますが、ここに来たからこそできることを、考えていただきたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>周辺施設の活用について貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>図書館の定期的な利用につきましては、各学期に1回ずつ、市立図書館より100冊の本を配送していただき、長期間の貸し出しをしていただいております。これにより、支援センターに通う児童生徒は、多くの本に触れる機会をいただいております。貸し出しいただいている本につきましては、図書館の職員が選定したもので、毎回、発達段階に応じた各種の本が届いております。利用している通所生の様子を見てみると、興味ある事柄の知識を広げたり、心を落ち着かせたりすること等に変役立っております。</p> <p>また、「tsukurun（ツクルン） KIRYU（キリュウ）」との連携につきましては、サイエンスドクター事業との連携と同様に、今後検討を進めて参りたいと考えております。</p> <p>いずれにいたしましても、児童生徒自ら出かけていくという活動も取り入れて参りたいと考えております。</p> <p>また、桐生駅、西桐生駅の活用につきましては、堤町の教育研究所から移転し、歩いてすぐに行ける距離となっております。子どもたちが様々な活動をするのに、その行動範囲が広がるという意味では、本当にいろいろなことが考えられると思いますので、今後可能性を確認しながら活動の幅を広げていけたらと考えております。大変ありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
荒木市長	それでは最後に教育長からお願いいたします。
教育長	<p>教育支援センターが小曾根町に移転して1年が経とうとしています。堤町の静かな環境の中で過ごしていた子供たちが、人通りの多い、特に高校生がたくさんいるこの新しい環境、新しい施設に馴染んでくれるのかどうか、当初、大変心配をしていましたが、全くの取り越し苦労でありました。子どもたちは新しい施設での生活を積極的に受け入れて、そこでの生活を、現在、充実させている状況が見られます。</p> <p>報告にもありましたように、現在は昨年や一昨年の同時期よりも大変多くの児童生徒が通所しています。中には、自転車やおりひめバスを使って通ってくる生徒もいて、その生徒の声を聞いてみると、「朝のおりひめバスはお年寄りがいっぱい、病院とドンキでほとんど降りるんだ」などと非常に嬉しそうに話をしていたそうです。</p> <p>さらに今年は、説明にもありましたが、近くの大川美術館に複数回行って、作品を鑑賞するだけでなく、学芸員さんからも直接学んでおります。</p> <p>また、重伝建地区の裏通りまですみずみ歩いたり、群馬大学工学部の構内を訪れて、食堂に入ったら、ちょうどお昼時になって学生さんたちが大勢で押し寄せて来た時はさすがに気後れしたそうです。</p> <p>そのような形で様々なところに出掛けています。このあとえびす講にも出掛けるそうです。今後もこの教育支援センターの立地や利便を生かし</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>て、人や町と直接触れ合う機会を増やし、児童生徒同士もお互いに良い刺激、良い影響を与え合って、学び合い、さらに外に向かって発信できるように、そして元気に学校や社会で活躍していけるように、教育支援センターの充実に努めてまいりたいと思います。各課、それから各部の力をいただくことがあるかもしれませんが、どうぞご協力の程よろしく願いいたします。</p>
荒木市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>一つ言い忘れておりましたが、群馬大学の学生との新しい連携で「学生×、桐生つながるプロジェクト」を新しく作らせていただいて、今、群馬大学の学生を中心とした32名の方に、先ほどお話をさせていただいたミニきりゅうの取材に来ていただいたり、お手伝いをしていただいたり、また、商店街のお店に行ったり、飲食店の方々とコミュニケーションをとりながらインフルエンサー的な取り組みをしていただいたり、飲食店マップを中心になって作っていただきました。このような取組等もこれからの連携の中でぜひ繋げていければ、より効果的だと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは一通り委員の皆様からご意見をいただきましたが、まだ言い残されていることがある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。それでは教育委員の皆様方には大変貴重なご意見をいただき、最後は総括ということで教育長にまとめていただきました。</p> <p>これからも関係部局、関係機関との調整を図りながら、しっかりと取り組んでいければと思いますので、皆さんにはこれからもどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは本日本日予定しておりました議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しいたします。ありがとうございました。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次第「4. その他」といたしまして、最後に事務局より、次回の会議開催に関しましてご連絡をさせていただきます。</p> <p>今年度の次回会議開催につきましては未定でございますが、協議事項が生じた場合には、随時、日程等の調整をさせていただきたいと思っておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、令和7年度第1回桐生市総合教育会議を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。</p>

○閉会 〈司会：教育総務課長〉

（終了：午後4時30分）